

せんだい普及センターだより VOL.73

(令和2年2月25日発行)

# BLOSSOM

BLOSSOMとは農家の皆さんと普及センターが協同し美しい花を咲かせるよう、また実りあるものとなるようお願いを込めて名付けました。

## 宮城県仙台農業改良普及センター

(宮城県仙台地方振興事務所農業振興部)

〒981-8505

仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL 022-275-8320 (地域農業班)

022-275-8410 (先進技術第一班)

022-275-8374 (先進技術第二班)

FAX 022-275-0296 (共通)

E-mail sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

URL <http://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/>

### 農業の持続的な発展に向けて

元号が平成から令和へと変わった昨年は、ラグビーワールドカップ日本代表の快進撃が、日本中を興奮と感動の渦に巻き込みました。しかし、その開催期間中に上陸した台風19号により、仙台圏域を含む各地に甚大な被害をもたらしたことに、とても心が痛んだ年でもありました。

今年、東日本大震災から10年目という節目の年です。7月には2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開幕し、世界中の注目が日本に、そして東北に集まるでしょう。

9月に宮城県で開催される「第40回全国豊かな海づくり大会」では、全国に食材

王国みやぎの魅力が発信されることとなり、復興する姿を内外に伝えていく年となりそうです。

農業分野においても、復興の総仕上げに向かう時です。

普及センターでは、本県農業を基幹産業として持続的に発展させていくため、地域農業の担い手の確保・育成や農地中間管理事業等による農地の集積・集約、新たな付加価値を生み出す6次産業化の推進など、職員が「ONE TEAM」となって支援を行ってまいります。

仙台農業改良普及センター  
技術次長(総括担当) 櫻田英子

せんだい普及センターだよりは、管内市町村の認定農業者等に配付させていただいています。

# 令和元年度プロジェクト活動の実績

－ 今こそ拓こう！多様な仙台近郊農業 －

## 課題名：省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上

大郷町の「みどりあーと山崎株式会社」は、農地中間管理事業による農地集積が急激に拡大したことから、作業の分散、省力・低コスト化などを目的に、水稻直播栽培の導入試験（2ha）に取り組んでいます。直播栽培の担い手は今年度から若手社員が担当することになり、栽培暦や作業のチェックリストの活用、先進地視察、除草剤試験などを行いながら、雑草防除や倒伏対策などの課題解決に取り組みました。その結果、技術の習得が進み、令和元年産収量は402kg/10aとなり、昨年度の単収390kg/10aを上回る結果となりました。



べんモリ直播播種作業のチェック

大豆栽培においては、土壌診断によりリン酸、加里の不足がわかり、施肥設計の検討を行うとともに、生育調査の実施、先進地視察などを通じて社員の栽培技術の習得が図られました。

また、法人が経営計画の達成に取り組む中で、概ね5年後をめどに経営継承を目指していることから、経営継承計画の作成を働きかけるとともに、専門家による指導を受け、計画案を作成しました。今後は、後継者となる社員と計画を共有し、円滑な経営継承の実現に向けた取組が進められる見込みです。

## 課題名：中山間地域農業を支える地域営農体制の構築

普及センターでは、令和元年度から仙台市西部の倉内・大針地区を対象に、中山間地域農業を支える地域営農体制の構築に向けた活動を支援しています。

倉内・大針地区は、仙台市の中心部に隣接するものの、農業の担い手不足、耕作放棄地の増加、鳥獣被害の増加など、持続的な地域農業の維持に当たり課題が山積しています。これらの課題に対応するため、平成29年7月に「倉内・大針農村地域活性化委員会」を設立し、基盤整備事業導入等による地域活性化を進めています。



たまねぎ収穫研修会

普及センターでは、基盤整備後の地域営農確立に向けて、高収益作物として長ねぎ、たまねぎ、ジャンボにんにく等の試験栽培を支援しています。

また、委員会の定例会議で、地域を支える中心経営体として「農事組合法人」設立の必要性について情報提供を行うとともに、地域住民の合意形成に向けた支援を行いました。地域住民の意向が確認されたことから、令和2年度には、集落営農の法人化が予定されています。



## 課題名：GAPを活用した現場力の向上

株式会社未来彩園では、ASIAGAP認証取得を契機として、パート社員も含めた全社員が自発的に職場の問題に気づき、改善しようとする組織風土づくりに取り組んでおり、普及センターは、その活動の支援を行いました。

パート社員に対し、GAPへの理解を促し職場での話し合いによる作業改善活動を動機づけるために、まず各作業班のパートリーダーを対象とした勉強会を5月に開催した後、全社員を対象とした社員研修会を8月に行い、段階的に意識醸成を図りました。9、10月には、各作業班に分かれてワークショップを3回開催し、各作業班で、作業工程や問題点、解決策を話し合いました。

最終回には、班ごとの目標が設定され、全員の前で発表が行われました。

ワークショップで作業工程を再確認し課題を洗い出したことで、間違いやすい作業のミスを減らすための掲示物を自主的に作成するなど、作業改善を行う動きが現れてきています。更には、栽培マニュアルを全社員で作成するなど、現場のルール作りに取り組むようになりました。

普及センターでは、話し合いが定着し、自ら改善活動ができるモデル経営体育成を目指し、次年度も引き続き支援していきます。



間違いやすい作業について掲示物を作成

## 課題名：6次産業部門の改善による経営力の向上

普及センターでは、農事組合法人仙台イーストカントリの6次産業部門の安定化を図り、持続的な経営が行えるよう支援しました。

具体的には、農家レストランと加工場、それぞれの商品・メニューの現状を整理し、売上高、販売量、利益率のランキングを把握してもらいました。また、普及センターが作成した原価計算シートを使い、商品原価の点検作業を行いました。さらに、現状整理の結果を踏まえて、売れ筋商品、利益の高い商品、集客のための商品など、商品の位置付けを整理し、それを考慮した商品改善を行い、商品力の向上を進めました。

支援活動の結果、対象者が利益率を意識した販売を行うようになり、営業利益が増加しました。また、委託販売先との取引の際に、原価に基づいた価格交渉が行われるようになり、経営力の向上が図られました。

次年度は、販売計画に基づいて、販売実績の把握、評価、改善のサイクルの実践支援と作業効率向上に向けた、製造作業の改善支援を行い、さらに、経営力が向上するように継続して支援していきます。



商品原価の点検作業

## 「農業法人若手・中堅社員のための社会人基礎カステップアップセミナー」を開催しました。

令和元年12月13日から4回コースで、農業法人若手社員のスキルアップを目的に、せんだい農業園芸センター研修室において「農業法人若手・中堅社員のための社会人基礎カステップアップセミナー」を開催しました。

みやぎ産業振興機構と共催した本セミナーには、当普及センター管内を中心に16法人29人の参加申し込みがあり、会社や組織の役割、法人が求めるスキル等について、ホライズンコンサルティンググループ株式会社の庄司和弘代表取締役を講師に、講義とワークショップを行いました。各法人の代表等にも参加していただいた最終回のセミナーでは、OJT計画シートを活用して各自が設定した「法人における具体的目標」について発表し、各法人代表等からは、今後の社員の業務への取組に対する期待と励ましの声が多く寄せられました。



若手・中堅社員で実施したワークショップ

経営者を前に自らの目標を発表



## 「みやぎ農業未来塾ステップアップ研修会」を開催しました。

1月23日、農業次世代人材投資資金の交付（年間最大150万円）を受けている認定新規就農者10名を対象に、決算書の作成方法について研修会を行ないました。

この交付金は、新規就農後の生活安定のため交付されるもので、交付額は、前年の本人の所得によって変動するシステムに変更されたことから、普及センター職員と三井税理士が講師となって、期末の決算整理と的確な所得算定について約4時間にわたり講義を行ないました。

普及センターからは「経営の諸帳簿は確定申告ではなく経営改善のために作成するもの。作物別に原価計算できるような記帳を」と指導しました。三井税理士からは「網羅性・検証性・秩序性のある帳簿を作成しないと税務署は突然やって来る」との厳しい指導があり、受講生からの「経営改善と適切な確定申告に向けて頑張っていきます」との声を聞き散会となりました。

普及センターでは、新規就農者の就農計画の達成と経営定着に向けて、今後とも技術指導や経営研修を引き続き行っていく予定です。



三井税理士による確定申告指導

## 気象変動に耐える米づくりに取り組みましょう

仙台普及センター管内の令和元年産水稻では、5月11日に田植の盛期を迎え、8月2日に出穂期を迎えたほ場が過半となりました。7月下旬～8月中旬に高温条件が続いて高温登熟となったことで、白未熟粒の発生が助長され、宮城県内の一等米比率（うるち玄米）は64.8%と過去10年で最低となりました。

本年の結果を踏まえ、気象変動のリスクを軽減する対策として「中生品種の晩期栽培」、「直播栽培」、「晩生品種」が挙げられます。生育ステージが遅くなるこれらの栽培では、高温登熟の軽減、障害不稔の軽減、秋雨時期の刈取り作業回避等のリスク分散と玄米品質を高める効果が期待されます。これに加え、適正な生育量確保のための適期中干しや、地力維持のための土づくりなどを合わせて実施し、1等米比率90%以上の安定的な確保を目指しましょう。

表 移植期別の品質、食味及び登熟気温等

移植時期	有効茎歩合 (%)	整粒歩合 (%)	味度値	出穂後40日平均気温 (°C)
5月1日	69.6			22.7
5月10日	79.5	83.8	87.6	22.4
5月20日	76.4	90.8	89.1	22.0
5月30日	82.6	91.8	89.5	21.4

注) 整粒歩合、味度値は古試平成18～20年の試験ほの平均